

1

①

青竹

②

下草

③

森林

④

花見

⑤

木立

2

1

イウ

2

安全

3

こわい

(順不同・完答)

4

ネ
コ
の
立
場

5

ヒ
ト

6

ア

7
ア

2

イ

1

ウ

2

3

1

つ
む
じ

2

イ

3

A

エ

B

イ

C

ア

D

ウ

4

ど
き
よ
う

5

ア

6

ち
い
さ
な
ひ
と

配点

1 各2点×5=10点

2~3 各5点×18=90点

<計>100点

1 漢字の書きとり問題は小学校一年生で学習したものを出题している。また、今回は、植物に関係のあることばばかりを出題した。漢字の学習は、字の学習であると同時に、ことばの学習である。知らないことばはしっかりおぼえてほしい。

2 1 段落の残りを読むと、ネコが人を観察していることがわかる。また、次の段落のはじめにも「ネコにかぎらず動物というのは、まず初めにこのヒトは安全かそうではないかということを見きわめる」と書いてある。問題の「あなた」はもちろん人である読者のことである。

2 「このヒトは大丈夫、そうネコが判断したときに……近づいてくる」と書いてある。この「大丈夫」の部分空らんにして、「このヒトは□□、そうネコが判断したときに……近づいてくる」としたときに、□□にはいる漢字二字のことばが答えである。

3 ちょっとはなれたところにあるので見つけにくかったかもしれない。「ネコに□□思いをさせている」の□□にはいることばである。ということは、ネコの思い、つまりネコの気持ちが答えになる。ネコがどんな気持ちになったら、ヒトを嫌うかということである。

4 「自分が主人公になっていないだろうか」というのは、「自分が主人公になっているから、嫌われるんですよ」ということである。続く部分には「ネコとお近づきになりたいのなら、ネコの立場になってものを考えてみよう」と書いてある。これはネコを主人公にしているのである。そうすれば、ネコに嫌われないと筆者は言っている。

5 問題に「ネコにとって」と書いてあることに注意しよう。ネコに「向かって一直線に駆けて」くるのは、子どもである。子ども、つまりヒトである。

6 題をつけるということは、この文章が何について書かれているかを考えるということである。文章中に、「カメラ」ということばが二回、「写真」ということばが一回出てきたことに気付いただろうか。

7 ア 第一段落に「人なれしたネコでも……観察して」と書かれている。
イ 問3にもあったように、こわい思いをさせると嫌われるのである。

ウ 「自分の何倍もある大きな動物」が近づいてきたら、ネコもヒトもこわがると書かれているが、これは「ネコより大きい人」（どんな人だってネコよりは大きい）はみんなネコとなかよくなれないということではない。

3 1 「じいさん」ということばをまずはさがしてみる。すると「つむじのじいさん」というのが見つかる。「つむじ」とは頭のとっぺんの、髪の毛がうずをまいているところのことである。「つむじ曲がり」といえば、すなおでない、ひねくれた人のことになる。

2 「じいさん」が（ひええ！）と心のなかでさげんでいるところがあるが、そこには、（こんなぼうやの目にとまるようじゃ……）と書いてあった。

3 Aはおばあさんをふりはらうところで、Bは「何度も地面にころげおち」ているところである。Cは「でんぐりがえし」につながってしまったところで、Dは「こんな男の子のせなかにについているものである」。

4 「たいしたもんだ」は、前の段落の男の子のようすを見て言っていることばである。さらにその前の段落は「まだほんの赤んぼうのくせに、なかなかどきどきがある」ということばで終わっていた。

5 「じまんの足をけて……一気にすりぬけた」とあるので、そのようすに合うものをえらぶ。

6 「チイチャナ」はすぐにわかるのではないだろうか。赤んぼうの足のあいだをすりぬけるような「じいさん」なのだし、「コロボックル（こびと）」ということばもあった。「チト」は「じいさん」のことをあらわしていることばだが、どんなに舌足らずでも「じいさん」が「チト」になることはないだろう。「○ト」と考えたら、「ひと」ということばにたどりついたのではないか。